

企業立地が進む石狩湾新港地域の発展に迫る

石狩湾新港管理組合
石狩湾新港外貨物利用促進協議会
北海道石狩市新港南2丁目725-1
Tel 0133-64-6661 Fax 0133-64-6666
<https://www.ishikari-bay-newport.jp/>

札幌圏最大の工業流通団地 さらなる企業進出を促進



港と一体になって発展する石狩湾新港地域

札幌市中心部からわずか15キロメートル、車で30分圏内に位置する石狩湾新港。この背後には港と一体となって開発が進められている石狩湾新港地域（以下、新港地域）が広がっています。新港地域は、総面積が約3,000haに及び、流通業や製造業等、多種多様な企業が約770社立地する札幌圏最大の工業流通団地です。

新港地域の分譲は昭和53年から始まり、札幌との近接性が評価され、住宅関連企業の誘致が進められた結果、木材・木製品製造業の立地が進みました。その後、札幌都心と新港地域を結ぶアクセス道路の充実が図られたことに加え、港湾整備も着実に進められた結果、倉庫・配送センター等の流通系企業が進出したほか、水産加工食品企業、製品や原料をストックする冷凍冷蔵倉庫業の立地も目立ちました。さらに、平成6年に石狩湾新港が国際貿易港として開港して以降、企業進出が加速し、リサイクル企業やエネルギー企業などの港湾を活用する企業の進出も進み、札幌圏を支える生産と物流の拠点に発展しています。

新港地域の分譲状況は、令和7年6月末時点で、石狩湾新港地域土地利用計画面積1371.3haの約75%に至っておりますが、物流センターなどをはじめとする立地需要が根強い状況です。そのため、新港地域の開発を手がける石狩開発株式会社様では事業用地を求める声に対応するため、現在、銭函4丁目地区と新港南2丁目地区の新規造成を進めています。

物流施設やデータセンターの立地が期待される

銭函4丁目地区は、札幌市中心部までアクセスすることのできる「新川通（道道125号）」と接続されます。隣接地にはすでに、大型トラックの整備サービスを行うUDトラック北海道株式会社様や、北海道産原料から食品を製造する株式会社北海大和様等、このエリアの利便性の高さから、さまざまな企業が立地しており、今後も主に物流に関連する企業を中心とした集積が期待されています。

また、新港南2丁目地区は、地元自治体である石狩市の都市計画（特別用途地区）において、「情報技術関連特別業務地区」に指定されており、IT企業やデータセンター等の立地が想定されています。既にこの周辺にはさくらインターネット株式会社様をはじめ、複数のデータセンターが立地しており、今後もクラウドサービスの普及やAIの進化に伴い、データセンターの需要は高まることが見込まれ、更なる関連企業の進出が期待されています。



▲営業用冷凍冷蔵倉庫が新港地域内に複数立地
総庫腹量は北海道全体の25%以上



▲建設中のデータセンター

新たな道路の開通
によりアクセス性が
向上（裏面へ）





さらに、現在、新港地域と札幌方面とをつなぐ新たなバイパス道路の整備が実施されており、本年12月に開通する予定となっています(左写真)。これにより、札幌方面とのアクセス性が向上し、物流の効率化、交通分散による渋滞緩和などが期待されています。

港湾管理者としましては、このように新港地域の利便性が増すことで、今後ますます企業立地が加速し、地域全体が活気づくものと考えており、港湾を利用する企業の進出により、取扱貨物量の増加に繋がることを期待しています。

今後も、本港が新港地域と一体となって北海道経済の一層の活性化に資するよう、引き続き港湾機能の拡充等に取り組んで参ります。

TOPICS!!

石狩湾新港振興会 田岡会長が市民に講演

令和7年9月、いしかり市民カレッジが主催する講座で、石狩湾新港振興会会長の田岡克介氏が、「石狩湾新港30年の歩みと今後の展望」と題して講演をしました。

田岡氏は、「石狩湾新港の成り立ちは古く、最初の港湾構想は明治時代まで遡り、100年間の時を経て誕生した。昭和45年に『第3期北海道総合開発計画北海道原案』が決まると、新港開発予定地の買収のため石狩町地主連絡協議会を開催し、通常1,000haの買収には数年を要するところ、3日間で1,260haを買収し、早期開港に向かったことは、100年の魂のなせる業」と構想当時について語りました。

また、国際貿易港として開港してから現在までを振り返り、「当初より、物流と製造の拠点として整備され、道内全域に物資を供給する重要な基地としての役割を担っていた。現在は、中央埠頭でLNG輸入基地が稼働し、さらに新港地域内にバイオマス発電施設等の再生可能エネルギー発電施設の立地が進むなど、多様なエネルギーの供給拠点としても発展している。今後の展望については、エネルギーと地域内に立地するデータセンター等のデジタル基盤を結びつけることで、新港地域の成長と、さらに北海道全体の発展に貢献することが期待される。石狩湾新港は、北海道の未来を支える中枢拠点として、さらに重要な役割を果たしていくだろう。」と語り、石狩湾新港の将来について力強く結びました。



田岡 克介氏 (石狩湾新港振興会会長)

昭和43年に石狩町(当時)に奉職。以後、石狩湾新港管理組合の職員として、港湾の整備や利用促進に取り組む。平成11年から令和元年までは石狩市長として本港を中心としたまちづくりを進める。現在は石狩湾新港振興会会長として、通算40年以上にもわたり、本港の発展にご尽力いただいている。

たびのホテル石狩が10月オープン!中長期滞在に便利!

令和7年10月、石狩市内に「たびのホテル石狩」がグランドオープンしました。「たびのホテル」ブランドの第10号となるこのホテルは、市内最大規模となる全175室を有しています。

本誌でもご紹介しているとおり、近年、石狩湾新港地域においては企業進出が盛んな状況であり、大型施設の建設が続いていることから工事関係者等をはじめ、中長期向けの宿泊施設の需要が増しています。また、令和6年には港湾区域内で洋上風力発電施設が稼働するなど、全国的にも注目を集めていることもあり、宿泊需要に影響していると考えます。

このホテルでは、全客室で広さ15㎡以上のゆったりした空間が確保されており、洗濯機や電子レンジ、2ドア冷蔵庫を完備するだけでなく、一部にはミニキッチンも備えるなど、中長期滞在者向けの設備が充実しています。そのため、出張中でもまるで「住む」ように快適に滞在できる環境が実現されています。また、館内には大浴場が備えられているほか、朝食では石狩近郊で採れた食材を活かすなど観光でも利用しやすい施設となっております。

是非本港にお越しになれる際には、ご宿泊してみたいはいかがでしょうか。



たびのホテル石狩 (石狩市花川北3条1丁目7)



▲広々としたダブルルーム



公式HPリンク